

編集後記

今回の『通信』は編集委員会からのお知らせを会員の皆様にできるかぎり早くお伝えするために、予定よりも1ヶ月繰り上げて発行いたしました。

事務局員に加わって間もない身でありながら、『通信』編集担当という大役を仰せつかり、大変恐縮いたしております。いろいろと至らぬ点もあろうかと存じますが、精一杯務めさせていただきたいと思いますので、今後とも皆様には何卒お導きくださいますようよろしくお願ひ申し上げます。

(杉谷祐美子記)

『通信』編集は事務局・杉谷祐美子が担当しております。

連絡先 (E-MAIL) suguy1@ss.iij4u.or.jp

※上記アドレスの「1」は数字ですので、ご注意ください。

なお、E-MAIL以外による御連絡は、下記までお願いいたします。

連絡先 〒562-8558 大阪外国語大学外国語学部 進藤 修一研究室内

TEL / FAX 072-730-5355

E-MAIL sshindo@post01.osaka-gaidai.ac.jp

sshindo@jnb.odn.ne.jp

『大学史研究通信』第37号は、2003年9月30日発行予定です。

大学史研究会事務局

〒562-8558 大阪府箕面市粟生間谷東8-1-1

大阪外国語大学外国語学部 進藤 修一研究室内 大学史研究会

TEL /FAX 0727-30-5355 EMAIL sshindo@post01.osaka-gaidai.ac.jp

大学史研究会事務局員（五十音順）

阿曾沼 明裕 (名古屋大学)

進藤 修一 (大阪外国語大学)

橋本 鉱市 (東北大学)

吉村 日出東 (明治大学)

大川 一毅 (早稲田大学)

杉谷 祐美子 (早稲田大学)

福石 賢一 (九州女子大学)

大学史研究通信

第36号、2003年6月30日(月)

大学史研究会

第36号の内容：会員ニュース・会員新刊ニュース・関連学会ニュース・編集委員会からのお知らせ・事務局からのお知らせ・編集後記・大学史研究会事務局員一覧

会員ニュース

谷本宗生会員

(所属変更) 東京大学史史料室(専任室員)

(第35号掲載時に誤植がありましたので、訂正させていただきます)

新入会員ニュース

編集担当者からのお願い

編集担当者より新入会員自己紹介をお願いしております会員の方々は、恐縮ですが原稿をお寄せいただきますようお願い申しあげます。

会員新刊ニュース

- 1) B・R・クラーク(有本章監訳)『大学院教育の国際比較』玉川大学出版部、2002年
(第35号掲載時に誤植がありましたので、訂正し再掲いたします)
- 2) 柿原泰(共著・鈴木淳編)『工部省とその時代』山川出版社、2002年
- 3) 折田悦郎(他・編集・校訂)・鬼頭鎮雄(著)『九大風雪記』九州大学史料室、2003年
- 4) 望田幸男(編・著)『西洋の歴史・基本用語集<近現代篇>』ミネルヴァ書房、2002年
- 5) 荒木康彦(著)『近代日独交渉史研究序説――最初のドイツ大学日本人留学生島清治とカール・レーマン』雄松堂出版、2003年
- 6) 渡辺和行(著)『フランス人とスペイン内戦』ミネルヴァ書房、2003年
- 7) 進藤修一(共著)『民族』(「近代ヨーロッパの探求」第10巻)、ミネルヴァ書房、2003年

<第一セッション：教師と教職の社会史>

- ・松塚俊三（福岡大学）「イギリスの労働者は何をどのように学んだか、学校の中でもなく外でもなく……読書の社会史と教育史……」
- ・高木雅史（福岡大学）「学校・家族の関係をめぐる一断面……戦後初期『教育相談』に見る心理学者・教師・親の関係……」
- ・槇原 茂（島根大学）「農民家族エミール・ギヨマンにみるソシアビリテの変容と広がり」

<第二セッション：帝国と学校>

- ・駒込 武（京都大学）「『帝国と学校』研究のために」
- ・大津留厚（神戸大学）「ハプスブルク帝国における教育と民族」
- ・並河葉子（神戸市外国語大学）「ミッションと学校」

<第一セッションのポイント>

松塚報告は、イギリス労働者階級における独学者文化の特徴とその歴史性という観点から、イギリス労働者階級が、ビクトリア期から第二次世界大戦期にかけて、ひとつの個性的な独学文化を経験したことを論じた。

高木報告は、「教育相談」という問題を取り上げ、戦前から 1970 年代にかけて、その普及にたずさわった心理学者と学校・教師の対応を跡づけるなかで、教師と親の関係にも論及しようとした。

槇原報告は、農民が残した記録のなかに、アソシエーションが形成される契機を読み取ろうとした。

<第二セッションのポイント>

駒込報告は、座長としての問題提起的発言で、君主制、宗教、言語、人種のような指標と帝国の関係、そこでのジェンダーや学校の役割などに関する問題指摘がなされた。

大津留報告は、19 世紀末のハプスブルク帝国において、小学校における登録が言語をもとに行われていた事例を論じ、多文化の共生する国民国家形成への試みを検証した。

並河報告は、イギリス帝国における女性のミッションを取り上げ、海外ミッションにおける学校の役割や専門職へのステップなどを論じた。

なお本研究会は 10 月 5 日（土）、例会をもつべく準備にかかっている。

編集委員会からのお知らせ

I 『大学史研究』第19号掲載の論文決定

編集委員による査読の結果、『大学史研究』第19号には、以下の論文4点と書評1点の掲載が決定いたしました。

【論文】

- ①阿久津正幸 「イブン・ハッリカーンのマドラサ入学、バハー・アッディーン・ブン・シャッダードの講義—イスラム世界の高等教育施設における学術・教育活動の素描—」
- ②福留東士 「成立期のビジネス・スクールにおける社会科学と実務教育の葛藤—ペンシルバニア大学ウォートン・スクールの事例を通して—」
- ③加藤善子 「芸術の概念をつくりだした学生たち—クラシック音楽の愛好スタイルからみる西洋文化の受容—」
- ④斎藤泰雄 「メキシコ国立自治大学の「黄金時代」—1950年代と大学—」

【書評】

- ① 谷脇由季子「館昭編著『短大からコミュニティ・カレッジへ』(東信堂、2002)」

II 『大学史研究』第20号の特集テーマ

特集テーマは「大学史における公と私」に決定いたしました。

上記テーマで論文を募集いたします。〆切は8月末日です。

III 論文募集

『大学史研究』第20号の論文を上記特集テーマ以外でも募集いたします。

〆切は上記同様8月末日です。なお、論文は随時受け付けております。巻末編集委員会宛にご送付ください。

IV 『大学史研究』英文タイトル

『大学史研究』第18号の英文タイトルについて、執筆者の意図と若干ずれたところがありましたが、ご容赦ください。

V 新編集委員

昨年度セミナー総会にて新たな編集委員として承認されました谷脇由季子会員(東京都立大学(非))は、2002年11月18日以降活動中です。

(文責:編集委員会)

- 8) 望田幸男（共訳）イワン・ニッシュ（編）『欧米から見た岩倉使節団』ミネルヴァ書房、2002年

「会員新刊ニュース」情報提供のお願い

前号より「会員新刊ニュース」という項目を新設し、会員の研究活動の紹介を心がけておりますが、編集者の情報のみでは限界があります。新刊を発行されたご本人、あるいは会員が新刊を発行されたという情報を得られた方は、編集担当杉谷までご一報頂ければ幸いです。

関連学会ニュース

比較教育社会史研究会2003年大会

望田 幸男（同志社大学名誉教授）

比較教育社会史研究会2003年大会は、本年4月5-6日、同志社大学で行われた。参加者延べ70名程度。この研究会は、研究交流と論集『叢書・比較教育社会史』の発行という二本柱の仕事をすることを目的に、昨春、発足したものである。論集は、今秋に『身体と医療の教育社会史』が発刊予定であり、続いて『ネーションの教育社会史』、『実業世界の教育社会史』が用意されつつある。加えて『教師と教職の社会史』や『帝国と学校』などが検討されている。

本研究会は、歴史学分野と教育学分野のそれぞれの研究者たちが、教育と社会の連関という視点を共有しつつ、教育を通じて歴史を見る立場と歴史のなかで教育を考える立場とが合流して結成されたものである。それぞれ年一回の大会・例会をもっている。

03年大会では、記念講演として今年、甲南大学を定年退職された村岡健次氏（大手前大学）の「教育と宗教—近代イギリス民衆教育史への一観角」が行われた。

村岡講演では、戦後日本におけるイギリス民衆教育史研究の回顧のうえに立って、宗教教育史を中心に再検討を行い、現代イギリスの宗教義務教育体制の宗教史的背景が探られた。

研究交流は、新しい論集テーマに関する検討を兼ねて、二つのセッションが行われた。

事務局からのお知らせ

『大学史研究通信』編集担当の交代

『通信』編集担当の交代について、事務局内で以下のように決定いたしました。

新任： 杉谷祐美子

なお、この交代にともない、進藤修一局員は涉外を含めた研究会全般の事務総括の職務に専念することとなりました。

原稿募集

『大学史研究通信』第37号は2003年9月30日に発行予定です。会員諸氏の現在の研究紹介、文献案内、会員主催の行事のお知らせなど、どのようなものでも結構です。皆様からの投稿を心よりお待ちしております。原稿提出・お問い合わせ等は『通信』編集担当の杉谷までお願いいたします。

住所・所属変更届のお願い

住所や所属（昇任・学位取得も含む）に変更のある会員は事務局進藤までご一報くださいようお願いいたします。教授・研究のために海外にご滞在予定のかたも、海外での連絡先をお教えいただけましたら幸いです。ご連絡は最終ページにございます、進藤研究室宛にお願いいたします。

『大学史研究通信』バックナンバー希望者に頒布いたします

『大学史研究通信』第14号～現在発行号まで希望者に頒布いたします。80円×部数+郵送料（1部の場合90円、2部以上は120円）分の切手を同封の上、編集担当杉谷宛までご請求下さい。ご連絡は最終ページをご覧ください。